

パリティ登録団体へのグループインタビュー 事前アンケート調査 まとめ

回答：10団体（NPO法人終活支援センター、I女性会議保谷支部、NPO法人まちかど保健室、新日本婦人の会西東京支部、西東京市パープルリボン・プロジェクトをすすめる会、NPO法人生活企画ジェフリー、西東京市女性史研究会、NPO法人ワーカーズコレクティブちろりん村、西東京市福祉推進協議会、NGO国際ソロプチミスト東京ー西）

パリティ活性化のための団体との協働のあり方についておたずねします

問8 現在、情報誌「パリティ」の作成は、8人の公募市民による企画運営委員により企画されています。貴団体は、情報誌「パリティ」の作成に協力していただけますか。協力意向がある場合は、協力したい内容、協力のために必要な条件等を教えてください。なお、既に貴団体のメンバーに協力をいただいている場合には、作成における希望等をご記入ください。

情報誌「パリティ」作成における希望
・誠に申し訳ございません。情報誌「パリティ」を個人的に知らないのが現状です。出来ることがあれば協力いたします。笑顔の街の法律家として、民事法務的な内容の提供が可能かもしれません。離婚問題や男女関係の問題も対応できます。
・申し訳ありませんが、メンバーが仕事などをもっているため、現在は協力不可能です。
・問7に記入。企画運営委員会とパリティまつり実行委員会の関係性がないのは、どうしてでしょう？運営委員からの参加があってもいいように思います。皆さんお忙しいと思いますが、パリティまつり実行委員会に反映できることもあると思います。大いにプラスになるとは思いますけど…
・企画運営委員会より依頼された登録団体活動紹介の記事作成には協力して来ました。ここで問われている「協力」とは具体的にどういう事が良くわからないのですが…？
・NPO 法人生活企画ジェフリーのメンバーは、これまで複数回にわたり委員として参加してきている。 ・『パリティ』編集委員にはいろんな市民が関わったほうがよいと考えるため、登録団体に限らず、広く公募し多様な市民参加が必要と考える。市民の固有の問題・多様な問題を提起し解決への糸口を提示することで『パリティ』への関心も高まるのではないかと。 ・公募の市民が企画運営委員になり情報誌を編集するというこれまでの方法は、今後も広い層からの参加が望まれると思う。
・代表はすでに委員をつとめてきました。 ・広く様々な分野の市民が関わることで有意義な編集も可能でしょう。 ・公募は続けてほしい。
・協力することはできません。

問7 パリテ（パリテまつり、パリテのイベント、情報誌「パリテ」等）をより多くの方に知ってもらうためには、広報や情報提供の方策をどのようにすればよいと思いますか。

パリテの望ましい周知方法
<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても、対象者の範囲が広いので、その年々に、何らかの対象者の絞り込みをした広報をするのはどうでしょうか？例えば、高齢の女性とか子育てママさんとか。人が集まれば、次のステップにいけると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・センター「パリテ」は場所的に市民の目に留まる位置にはないし、ルピナスの一部なので市民の目に入りづらいのではないのでしょうか。もっと広範囲に看板など設置してみるとか・・・。 ・情報誌については、発行部数が中途半端なので、全世帯に配布できるように予算化してみてもどうですか。毎年は無理でも2年に1回ぐらいの予算化をできないものではないのでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・すみません。当団体は会員が複数でいろいろなことに主体的に携わっているのですが、貴団体の計画に参加できない状態です。なので方策等及びません。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌については、年に1回ぐらいは、全戸に配布をしては？と思います。費用はかかりますが、今の情報誌を少なくしても、市民の目に触れることは、必要だと思います。市報や公民館だよりが良く読まれているのをみてもあきらかです。 ・パリテまつりですが、住吉会館まつりとして3施設合同でやっては？と思います。それぞれがバラバラにやるのもいいのですが、そこに来る人たちだけで、広がりがありません。パリテまつりについても2階、3階の人たちは知らない事実には驚きます。同じ会館内なので大変だとは思いますが、実現すれば、大きく広がりパリテの認知度も上がると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館便りと一緒に、全戸配布の対応を取ってほしい。現在の配布方法では、無駄になったり重複する家庭もある。年に1回であっても全戸配布の方が効果的ではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の暮らしにおける課題を見つけ、ジェンダー視点からの問題提起など。 ・性別役割分業・家父長制など、地域社会に残る根強い差別や偏見を捉え、解決へと導くことで、パリテの役目を明確にする。 ・連携：地域社会と連携する。「パリテまつり」イベントや情報誌『パリテ』に、企業・農協・商工会や警察など他機関に参加・登場してもらえるような企画を考え実行することで、関心ある市民を増やしていく。 ・目に留まるためにやるべきこと→たのしい、役立つ、地元愛、暮らしのヒントなど。 ・『パリテ』を全戸配布にする。そのためにやるべきことは何か。検討を本気で行う。 ・『パリテ』を市内の駅に配置する。通勤や外出で駅を利用する際、手に取りやすい。提案の背景として、武蔵境駅では定期的に市報や『まなこ』が設置されている。 ・いままで13年間の反省と問題提起など、一度総括する機会も必要だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民が集まる場で配る・・・配置する。（駅、郵便局、銀行、病院など）
<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌を市内の保育園～大学の各教育機関に配布する。公立の小学校、中学・高校も全員に配布してほしい。

問9 パリテまつりの実施方法・内容について、ご意見やご希望等がありますか。

パリテまつりの実施方法・内容についての意見や希望等
<ul style="list-style-type: none"> ・参加団体と茶話会等の交流の場があるとよいかもしれません。 ・単に出品にしてもお客としてだけの関係ではなく、団体として協力できないか。 ・いろいろな施設が関わっているので、平日に高齢者等来ているので金曜日も出店日にして、土日につなげられないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・パリテまつりの内容は年々とても充実していると思います。 ・今の実行委員会システムには、働いている女性の方が参加することはなかなか厳しいような気がします。 ・西東京市は市としての関わり方についても、もう一度基本から考える必要があるのではないかと感じます。
<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会に参加している会員をみていると大変だなと思っています。回数を減らすなどもう少し簡略化できないかと思っています。また開催の時期についても2月の寒い時期というのは、高齢の人たちにとって参加が難しい場所も遠いので考えては？と思います。いろいろ難しいとは、実行委員から聞いてはいますが…。
<ul style="list-style-type: none"> ・パリテ登録団体のメンバーの高齢化に伴い、年々実行委員も固定化しがちで、まつりの今後の運営体制にも不安感がある。 ・今後の対策として、男女平等推進センターパリテ独自のまつりは解消して、ルピナスを利用する3施設が協力した〔ルピナスまつり〕を開催、三者で実行委員会をつくり運営する。 ・せっかく3世代交流が図れる施設的な条件が整っているのだから、積極的に活用してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・新市誕生からの数年、市民会館に事務所があった時(フォーラム)から通算すると、13回くらい開催してきましたが、市民と行政の協働事業として年々参加者も増え、認知度も高まり、市民も関心をもって市報やチラシを見て下さっているようです。 ・実施方法・内容など長いスパンで見ると少しずつ変化してきています。多分その折々に失敗や成功を経験しながら変わってきたのでしょう。そこで大事なのはアンケートの声を真摯に受け止め対応していくことではないか。 ・最後に、今日までパリテの活動に参画・参加して下さった先輩たち(行政職員・実行委員)に感謝し、皆でよりよい方向を模索し繋げていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで実績を積み上げてきたパリテまつりです。実行委員会のお働きに敬意を表しつつ、10回目を迎えたまつりの今後、どんなあたらしい風をどう取り入れるか…皆さんで考えたいですね。

問10 西東京市の男女平等参画施策について、何かご意見があればご記入ください。

西東京市の男女平等参画施策への意見
<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等は、子どもの頃から考えないといけない問題だと思いますので子ども向けの展示や出店もあるとよいかもしれません。
<ul style="list-style-type: none"> ・本市では、「男女平等参画基本推進条例」「男女平等参画苦情委員会」などの設置がされていないように思うのですが…。ぜひ設置実現のために頑張ってください。 ・本市では、学校教育現場や家庭、障害者施設などマスコミで大きく取り上げられるような事故がありました。上記条例などは人権教育の大きな一つになると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・「西東京市男女平等参画推進計画」の浸透はまず、庁内から徹底させていただきたい。職員から男女平等施策が共感・支持されることが必要ではないでしょうか。なぜならかつて「職員アンケート」の記述にあった無理解な意見に愕然としたことを思い出した。男女平等参画施策(女性問題)は「人権問題である」という認識をもって、全庁的に積極的に取り組んでほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民への施策も大切ですが、西東京市の内部で働く人々にどのような課題があるか等の情報も提供してほしい。女性職員が育児・介護をどう工夫しているのか。男性職員は育児・介護にどう力を配分しているのかが市民から見えることも重要な指針になります。
<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等参画については少しずつでも知ることが大切。